

国際新都心づくりの起点「虎ノ門ヒルズ」に新たなシンボル 未来の東京を見つめる高さ10mの大型彫刻 ジャウメ・プレンサ《ルーツ》誕生！ ～創造や革新を生み出すアートの力で、世界一の都市づくりを推進～

森ビル株式会社は、開業から間もなく半年を迎える「虎ノ門ヒルズ」のオーバル広場に、2014年11月28日(金)、スペインを代表する世界的アーティスト、ジャウメ・プレンサによる高さ約10mの大型彫刻《ルーツ》を設置いたします。

《ルーツ》は、8つの言語の文字を使い、膝をかかえて座る人間をかたどった巨大なパブリックアートです。それぞれの文化を映し出す文字を通じて「世界の多様性」を表現し、「多様な文化の違いを越えて、人々が平和的に共存すること」を象徴する本作品に、当社は、虎ノ門ヒルズをルーツ(起点)に、世界の人々が共存する国際的な街づくりを進め、東京を世界一の都市にしたいという願いを込めました。



ジャウメ・プレンサ《ルーツ》2014年
ステンレススチール、塗装 H10 x W5.5 x D6.5m

「国際都市」と称される都市には、必ず素晴らしいアートシーンがあり、多彩な文化やエンターテインメントがあります。東京が「世界一の都市」を目指すうえで、創造や革新を生み出す重要な因子として、アートや文化は欠かせないものです。当社は、これまでも森美術館を基軸に、多彩なアートシーンを展開できる都市づくりを進めてまいりました。2020年の東京五輪でメインストリートとなる環状二号線(新虎通り)を眺めるように座り、未来の東京を見つめる《ルーツ》をシンボルとして、虎ノ門エリアに新しい文化や暮らしが根つき、ここから未来につながる創造や革新が生まれるような街に成長していくことを願っています。

《ルーツ》は、随時ご取材が可能です。ご希望の方は、下記担当者までご連絡ください。

【本リリースに関する報道関係者様向けお問合せ先】

森ビル株式会社 タウンマネジメント事業部 PR 担当: 田部、藤富、山村

TEL: 03-6406-6382

虎ノ門ヒルズ PR 事務局(株式会社オズマピーアール内) 担当: 渡辺、菅野、高橋

TEL: 03-3230-0177 FAX: 03-3265-5058 E-mail: toranomom@ozma.co.jp

作者 ジャウメ・プレンサ氏からのコメント

今回の作品《ルーツ》に込めた思い

日本という、現代的で最先端なものと伝統的なものが共存している特別な国について、根(ルーツ)が土から芽を出すように、伝統という大きくて豊かな土壌から、新しい文化や発展が生まれているようなイメージを持ちました。また、虎ノ門ヒルズのような大きなタワーの前に作品を作る際には、より自然に近い形で作品を作りたいと考え、形は外側に多くの根を持つ熱帯雨林の木々からインスピレーションを受けています。

また、国の文化や歴史を現す8つの言語は国際性を表現し、世界の調和の美しさを表しています。さらに、膝をかかえて座る“人間の形”は、人間誰もが、内側に素晴らしい美しさを秘めており、人の内側や内面に目を向けて欲しいという思いを込めています。

この作品を通して、“Celebration of Life”一人一人の人間の存在の素晴らしさと、“Celebration of Beauty of Global Community (Harmony)”この世界(の調和)の美しさを称えるとともに、虎ノ門ヒルズと人々との架け橋、そして人々の憩いの場になって欲しいと願っています。

なお、《ルーツ》に使用されている言語は、日本語、中国語、アラビア語、ヘブライ語、ラテン語、ギリシャ語、ヒンディー語、ロシア語の8種です。

ジャウメ・プレンサインタビュー及び《ルーツ》メイキングムービーは下記虎ノ門ヒルズウェブサイトにてご覧いただけます。

<http://toranomohills.com/ja/#/Art/5>



Photo: Laura Medina, Plensa Studio, 2013

ジャウメ・プレンサ / Jaume Plensa (プロフィール)

1955年、スペイン・バルセロナ生まれ。独創的な立体作品の制作で知られる、スペインを代表する世界的なアーティストです。鉄やブロンズ、ガラスなどの素材に哲学的なメッセージを込めた作品は、造形性の高さとコンセプトの深さを高く評価されています。1999年には、舞台美術界のアカデミー賞とも言われるプラハのカドリエンナーレでゴールドメダルを受賞するなど、数々の賞を受賞。日本では2010年瀬戸内トリエンナーレにて瀬戸内海の男木島に船の発着場の設計を行いました。

【主な個展】

- 2000年 七福神、代官山アドレス
- 2000年 ソフィア王妃芸術センター(スペイン・マドリッド)
- 2002年 バルティック現代美術センター
- 2008-09年 ニース近代・現代美術館
- 2010年 ナシャー彫刻センター、(アメリカ・ダラス)
瀬戸内国際芸術祭、男木島

【主な所蔵先、恒久設置】

- ブルジュ・ハリファ(ドバイ)、トロント国際空港、BBC(イギリス・ロンドン)、ニース、シカゴ他多数



House of Knowledge 2008年
フランス・ボルドー市での展示風景(2013年)
Photo: Thomas Sanson, Ville de Bordeaux



Wonderland 2012年
カナダ・アルバータ州 Encana 社のための制作
Photo: Encana

虎ノ門ヒルズ × アート 施設内作品のご紹介

グローバルハブを目指す虎ノ門ヒルズは、カルチャー発信地として、クリエイティブの力で街を活性化することを掲げ、施設内の至る所に、森美術館監修によるパブリックアートを設置しています。今回新たに設置される《ルーツ》以外にも、未来の東京に想いを馳せた、アジアの若手アーティストの作品が展示されています。

Sun K. Kwak (サン・クァク)
Untying Space_Toranomon Hills Tower



森タワー2F、3F オフィスロビー

虎ノ門が、かつて江戸城の南端にあった門の名前であったこと、近くに川が流れていたことから発想しデザインされたガラス壁面は空間を静から動に変え、虎ノ門を取り巻くさまざまな人、アイデア、エネルギーの流れをも連想させる。さらに、ダイナミックな模様は、オフィスワーカーが毎日川を越え、その門をくぐることもイメージしたという。

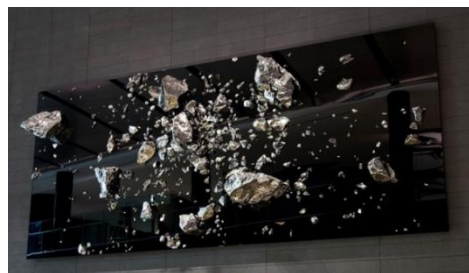
内海 聖史
あたらしい水



森タワー1F 車寄せロビー

注目の日本人若手アーティストの新作。壁面長さ約 27m、5 分割の巨大な油彩画には、変化する緑色をベースに様々な色彩がその上を水のように流れ、日本の四季を色鮮やかに感じさせる。

Zhan Wang (ジャン・ワン)
Universe 29



森タワー2F オフィスロビー

大きな岩を約 10m の高さから落とし、床に砕け散った 623 個の岩を小宇宙に見立てた作品。宇宙で岩が砕け散った時の爆発のパワーをイメージし作成された本作品は、虎ノ門ヒルズがこれから生み出すエネルギーを連想させる。

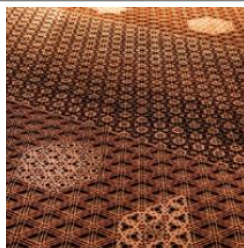
神谷 徹
emerald, fire opal, gamet, pearl, peridot, sapphire



森タワー2F、3F オフィスエレベーターホール

6 枚のアクリル画は、それぞれ宝石のタイトルがついたグラデーション彩色の作品。虎ノ門ヒルズの随所に使用されている色から着想を得ており、これからこの場所が紡ぐさまざまな「色」や「光」を象徴している。

小高 重光
無限の宇宙



森タワー51F アンダーズ 東京 ラウンジ

「埋もれ木」と呼ばれる特殊な木材を細かく切り、切子を組んでいく高度な伝統技術・組子細工は、地域を大切にするアンダーズのコンセプトを象徴している。

永田 哲也
白の蒸留箱



アンダーズ 東京 エレベーター

鯛焼きで使用していた紙を和紙に型取って作られたアート。お祝い事の象徴である鯛が、ゲストの到着を迎える。

虎ノ門ヒルズ内のアート作品は、全てご取材が可能です。また、オフィシャル写真もご用意しております。

ご希望の場合は、前ページ記載の PR 事務局までお問い合わせください。